

研究公正推進事業の令和4年度実績及び 令和5年度事業計画

令和5年5月25日

文部科学省、日本学術振興会、科学技術振興機構、日本医療研究開発機構

背景・課題

研究活動における不正行為の事案が後を絶たず、社会的にも昨今大きく取り上げられていることを踏まえ、文部科学省では「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」(平成26年8月26日 文部科学大臣決定)を策定した。

ガイドラインは、研究機関に対して研究倫理教育の実施を求めており、文部科学省及び資金配分機関(日本学術振興会、科学技術振興機構、日本医療研究開発機構)に対して、**研究倫理教育に関する標準的なプログラムや教材の作成、実効性の高い研究倫理教育とするための支援等**を求めている。

「科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律」(平成30年12月)においても、「研究開発等の公正性の確保等」が強く求められている。また、科学技術・イノベーション基本法(科学技術基本法から変更(令和2年6月))においても、科学技術の振興は、研究開発において公正性を確保する必要があることに留意する旨の規定も策定された。

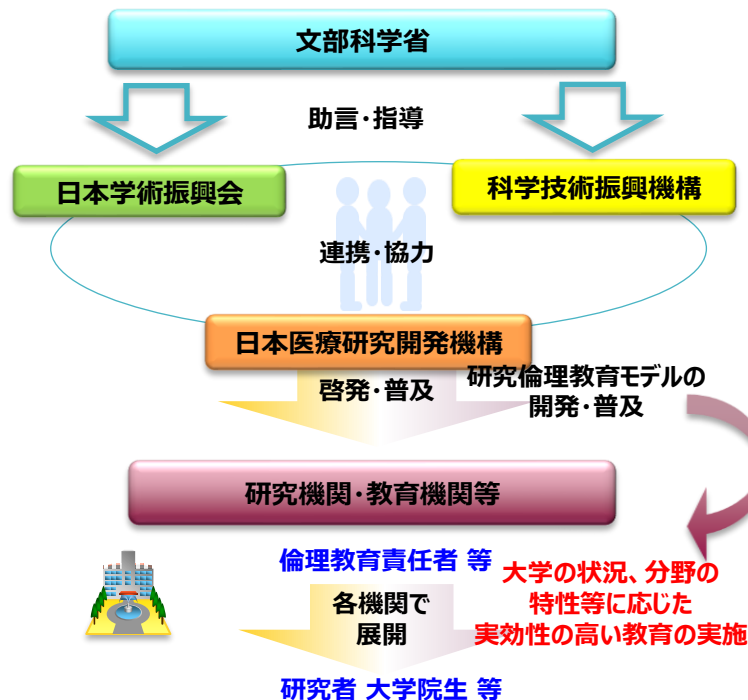
【事業の目的・目標】

研究倫理教育教材の普及・開発や研究倫理教育高度化等により、それぞれの状況に応じた効果的な研究倫理教育の実施等を支援することで、公正な研究活動を推進する。

【事業概要】

<日本学術振興会>	<科学技術振興機構>	<日本医療研究開発機構>
※「6. 健康・医療分野の研究開発の推進」と一部重複		
教育		
分野：全ての分野 対象者：主に研究者	分野：全ての分野 対象者：主に研究公正担当者	分野：医療分野
テキスト教材、eラーニング教材	映像教材のシリーズ化	医療分野の不正事例集
	※実践力強化のための 双方向型教育モデルの 開発・普及	ヒヤリ・ハット集
上記教材を活用したセミナー	研究公正担当者向けWS	
研究者の教育効果向上	担当者による研究機関での 研究倫理教育の企画力向上	
情報発信・連携・窓口		
	<ul style="list-style-type: none"> ポータルサイトの運用・改善等 シンポジウムの開催(3FA連携) 	<ul style="list-style-type: none"> 研究公正担当者のネットワーク構築
	<ul style="list-style-type: none"> 研究機関からの不正行為を防止する体制の構築の相談対応・助言(3FA) 	

【事業スキーム】



【これまでの成果】

- ・eラーニング教材(日本語版&英語版)の開発・公開等(JSPS)
- ・研究公正ポータルサイト(日本語版&英語版)の構築・運用(JST)
- ・研究倫理映像教材の開発(JST)
- ・医療分野の研究不正事例集、ヒヤリ・ハット集の作成(AMED)
- ・研究公正シンポジウムの開催(3FA連携、毎年度実施)等

日本学術振興会 (JSPS)

2022年度実績

1. 研究倫理教育教材の開発・普及

(1) テキスト教材 (Green Book) の普及

- 日本語版の販売部数： **64,574**部 (2023.3.15時点)
- 英語版の販売部数： **6,001**部 (2023.3.15時点)
- ホームページにおいてテキスト版 (日本語版・英語版・製本版) を公開

(2) eラーニング教材 (eL CoRE) の運用・改善等

- 研究者向け・大学院生向け教材
 - ・それぞれについて日本語版、英語版を提供
 - ・利用者からのアンケート結果等をもとに、操作性向上のための改修を実施 (2022年10月改修実施)
 - ・利便性向上の為、団体登録フローの変更を実施 (2023年2月改修実施)
- 登録者数： **675,706**名 (2022.12.31時点) ※のべ人数

2. 研究倫理教育の高度化

- 第5回JSPS研究倫理セミナー「研究者倫理教育にグループワークを導入する」の開催 (2022.12.15)
 - ※オンラインセミナーとして実施
 - ・eL CoRE既履修者で、研究機関の研究倫理教育担当者74名が参加
 - ・専門家による講演やグループワークを実施
- 研究公正シンポジウム「研究分野特有の研究不正への対応について」を開催 (2022.12.06)
 - (主催：JSPS、共催：AMED、JST、NEDO、BRAIN)
 - ・研究者や研究機関事務担当者などが参加
 - ・専門家による講演やパネルディスカッションを実施

3. 不正に関する告発等受付窓口

- 電話、FAX、メール又は面談により告発等を受付

2023年度計画

1. 研究倫理教育教材の開発・普及

(1) テキスト教材 (Green Book) の普及

- 前年度に引き継ぎ、普及に努める。
- 不正事案の変化や不正をめぐる考え方の変化、国際情勢の変化に対応するため、改訂を検討

(2) eラーニング教材 (eL CoRE) の運用・改善等

- 教材の改修
 - ・教育効果の高い、よりよい教材へ改善するため、修了者によるコースレビューのテキストマイニングを実施し、その結果を踏まえ、有識者のもと改修案を検討
- ・Green Bookの改訂を踏まえ、必要な改修を検討

2. 研究倫理教育の高度化

- 第6回JSPS研究倫理セミナーを実施予定 (2023年秋頃)
 - ※新型コロナウイルス感染症の動向によっては、オンラインセミナーとすることを検討
- 研究公正シンポジウムの実施
 - ・2020年度より、5FA (JSPS、JST、AMED、NEDO、BRAIN) 連携により実施 (2023年度はAMED主催で開催予定)

3. 不正に関する告発等受付窓口

- 電話、FAX、メール又は面談による告発等の受付を引き続き実施

研究倫理教育の高度化に関する取組 研究倫理セミナー・研究公正シンポジウム

○第5回研究倫理セミナー「研究者倫理教育にグループワークを導入する」

趣旨: eL CoREを更に有効に活用していただくため、反転学習としてグループワークを導入する際のポイント解説及びグループワークに適した事例の作成方法を解説するとともに模擬グループワークを体験する。

日時: 令和4年12月15日(オンライン開催)

参加人数: 74名

講師: 片倉啓雄 (関西大学 化学生命工学部 教授)、中村 征樹 (大阪大学 全学教育推進機構 教授)

○2022年度研究公正シンポジウムー研究分野特有の研究不正への対応についてー

趣旨: 各研究分野においてそれぞれの事情や問題によって起こりやすい特有の研究不正について理解を深めるとともに、それらを防止するための研究倫理教育や、研究機関が取り組むべき事項について考える。

日時: 令和4年12月6日(ベルサール飯田橋駅前及びオンライン開催(ハイブリッド形式))

参加人数: 会場64名、オンライン414名

登壇者: 佐々木孝彦(東北大学金属材料研究所 教授)、三木浩一(慶應義塾大学大学院法務研究科 教授)
中村征樹(大阪大学全学教育推進機構 教授)、水本哲弥(日本学術振興会理事(モデレーター))



科学技術振興機構 (JST)

2022年度実績

1. 研究倫理教育教材の開発・普及

(1) ポータルサイトの作成・配信運営等

- 他の資金配分機関（JSPS、AMED、NEDO、BRAIN）と連携してコンテンツを配信
- 研究機関の取組やオリジナルの記事等のコンテンツを充実
- 英語版の研究公正ポータルの運用
- 研究不正・研究費不正に関するパンフレット（日本語、英語、中国語）の提供（HP・冊子）
- 映像教材「倫理の空白 理工学研究室編」の公開（2022年5月）

2. 研究倫理教育の高度化

(1) 研究倫理映像教材の制作

- 倫理的な判断・態度の醸成を図るための、学習者の立場や分野等に
応じたケースメソッド式映像教材
「倫理の空白Ⅱ 盗用（人文・社会科学編、自然科学編）」制作

(2) 研修会・シンポジウムの実施

○研修会（WS）の実施

- ・研究倫理教育担当者対象の研修会を実施
（10月(2回)、3月開催）

○出前講習の実施

- ・研究機関等からの要望に応じて、JSTによる研究倫理に関する講習会を実施。研究機関で倫理研修を実施する際の参考としてもらうことがねらい

○研究公正シンポジウムの実施

- ・5FA（JSPS、JST、AMED、NEDO、BRAIN）連携により、会場・オンラインにて開催（JSPS主催（12月））

3. 不正防止・対応相談窓口

- 電話・メール相談のほか、ポータルサイトの相談窓口を通じ対応

2023年度計画

1. 研究倫理教育教材の開発・普及

(1) ポータルサイトの作成・配信運営等

- 他の資金配分機関（JSPS、AMED、NEDO、BRAIN）と連携してコンテンツを配信
- 研究機関の取組やオリジナルの記事等のコンテンツを充実
- 英語版の研究公正ポータルの運用
- 研究不正・研究費不正に関するパンフレット（日本語、英語、中国語）の提供（HP・冊子）
- 映像教材（「倫理の空白Ⅱ」盗用編等）の公開

2. 研究倫理教育の高度化

(1) 研究倫理映像教材の制作

- 倫理的な判断・態度の醸成を図るための、学習者の立場や分野等に
応じたケースメソッド式映像教材

(2) 研修会・シンポジウムの実施

○研修会（WS）の実施

- ・映像教材等を活用し研究倫理教育担当者対象の研修会を実施

○出前講習の実施

- ・規模や体制等の事情から、研究機関自らでは研究倫理講習を実施し
づらい機関を主な対象に、研究機関からの要望に応じて講習を実施

○研究公正シンポジウムの実施

- ・5FA（JSPS、JST、AMED、NEDO、BRAIN）連携により開催予定
（2023年度はAMED主催）

3. 不正防止・対応相談窓口

- 電話・メール相談のほか、ポータルサイトの相談窓口を通じ対応

「盗用」に関して、2つの研究分野におけるストーリーを制作。
ドラマの視聴とディスカッションを組み合わせたワークショップやグループワークで活用することを想定し、
大学における講義、研究機関での講習などさまざまなシーンで使用できるものとした。

掲載URL: https://www.jst.go.jp/kousei_p/measuretutorial/mt_movie_gapinethics2.html (QRコード)

【人文・社会科学編】 視聴時間 約26分

○ストーリー

学生時代から、PCのコピー&ペーストや安易な文献参照行為を繰り返してきた主人公の阿部優子。
大学院に進み、研究活動を続け准教授になりますが、ついに、自身の論文に“盗用疑惑”が生じます。

【自然科学編】 視聴時間 約33分

○ストーリー

ある大学の複数の研究者による共著論文に”盗用疑惑”が生じます。
不正調査委員会における証言などを通じ、それぞれの登場人物が、執筆当時の行動を振り返ります。

2023年5月
研究公正ポータル
にて公開



令和4 (2022) 年度 実績

1. 研究倫理教育教材の開発・普及・高度化

(1) 研究不正に関する事例集 (普及版・考え方例集) の作成・公開

- ・引き続き、日本語版/英語版のホームページ掲載
- ・RIOネットワークのメールマガジン等による周知
- ・日本語冊子版の配布 (普及版: 403部、考え方例集: 166部)

(2) 研究公正に関するヒヤリ・ハット集の作成・公開

- ・引き続き、日本語版のホームページ掲載
- ・新たに、ヒヤリ・ハット集 (日本語追補版、英語版) の作成
- ・RIOネットワークのメールマガジン等による周知
- ・日本語冊子版の配布 (727部)
- ・ヒヤリ・ハット集を活用したWSの開催 (対面及びオンライン: ヒヤリ・ハットに関する動画講演の事前視聴とグループワーク)

(3) 適正な画像処理方法の公開

- ・引き続き、「適正な画像処理方法」のホームページ掲載
- ・冊子版の配布 (122部)

2. 情報発信及び連携・ネットワークの強化

(1) RIOネットワーク

- ・メールマガジンの定期配信 (44回)
- ・研究公正に関するWS等の活動を支援 (1回)

(2) 研究公正シンポジウム

- ・令和4年度は、JSPS主催で5FA (JSPS、JST、AMED、NEDO、BRAIN) 連携により実施

3. 不正防止・対応相談窓口

- 書面・電話・FAX・電子メール・面談により、引き続き対応

令和5 (2023) 年度 計画

1. 研究倫理教育教材の開発・普及・高度化

(1) 研究不正に関する事例集 (普及版・考え方例集) の作成・公開

- ・引き続き、日本語版/英語版のホームページ掲載
- ・RIOネットワークのメールマガジン等による周知
- ・日本語冊子版の配布

(2) 研究公正に関するヒヤリ・ハット集の作成・公開

- ・ヒヤリ・ハット集 (日本語追補版、英語版) のホームページ掲載
- ・RIOネットワークのメールマガジン等による周知
- ・冊子版 (日本語追補版、英語版) の配布
- ・ヒヤリ・ハット集を活用したWSの開催

(3) 適正な画像処理方法の公開

- ・引き続き、「適正な画像処理方法」のホームページ掲載
- ・冊子版の配布

2. 情報発信及び連携・ネットワークの強化

(1) RIOネットワーク

- ・メールマガジンの定期配信
- ・研究公正に関するWS等の活動を支援

(2) 研究公正シンポジウム

- ・令和5年度は、AMED主催で5FA (JSPS、JST、AMED、NEDO、BRAIN) 連携により実施予定

3. 不正防止・対応相談窓口

- 書面・電話・FAX・電子メール・面談により、引き続き対応

令和4(2022)年度 研究公正に関する教材等の作成

※監修者等の所属・
役職名は当時のもの

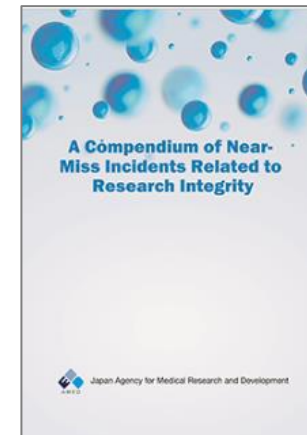
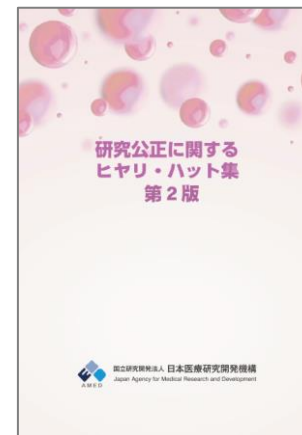


研究公正に関するヒヤリ・ハット集 (日本語追補版／英語版)の作成・公開

研究を進めるにあたっては、実際に研究不正を行ってしまう人は少ない一方、何らかの理由のために不適切な研究行為をしてしまおうか悩みながら思いとどまった例や、周りの人にそれは不適切な行為だと指摘されて不正をせずに済んだ例は実に多く存在すると考えられる。それらのヒヤリ・ハット事例を研究者等に広く紹介・共有し、似たような境遇になった際に思いとどまることができるようにするために、「研究公正におけるヒヤリ・ハット集(追補版)」を作成・公開した。

また、研究活動の国際化に鑑み、「研究公正におけるヒヤリ・ハット集」の英語版もあわせて作成・公開した。

【掲載先】 https://www.amed.go.jp/kenkyu_kousei/kiyouzai_hiyarihatto.html



監修、講師・ファシリテータ：関西大学
筑波大学
田辺三菱製薬株式会社

片倉 啓雄 先生
岡林 浩嗣 先生
金井 康郎 先生

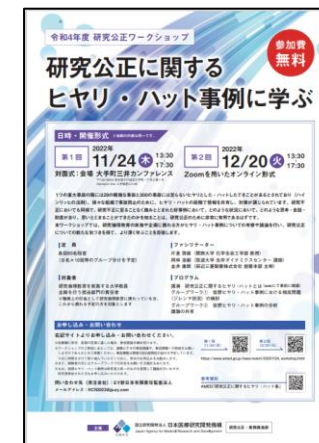
研究公正に関するヒヤリ・ハット集 活用ワークショップ

ワークショップ目的：研究倫理教育の実施や企画に携わる方がヒヤリ・ハット事例についての考察や議論を行い、研究公正についての新たな気づきを得て、より深く学ぶことを目的としたワークショップを開催。

対象者：研究倫理教育を実施する者(教員等)
研究倫理教育の企画を行う者(担当部門の責任者等)

開催日時：令和4年11月24日(木) 13:30~17:30 (対面型)
令和4年12月20日(火) 13:30~17:30 (オンライン)

参加者アンケート結果より、議論を通して多様な考え方があることを理解できた等、研究公正に対する理解が深まり、満足しているとの声が多数寄せられた。



監修、講師・ファシリテータ：関西大学
筑波大学
田辺三菱製薬株式会社

片倉 啓雄 先生
岡林 浩嗣 先生
金井 康郎 先生